

名古屋

石田学園報

創立55周年記念号

第6号 平成7(1995).12.16

名古屋明德短期大学
星城高等学校
星城中学
星の城幼稚園
星名英予備校
名英図書出版協会

学園創立者石田鑑徳先生 — 生誕90年 —

創立者石田鑑徳先生は、明治39年3月18日西春日井郡大野木村(現名古屋市西区)にて誕生されました。昭和50年12月23日に70歳で御逝去されましたが、ご存命であれば今年かぞえ90歳(卒寿)を迎えられます。



没後20年、教職員の協力と努力によって成長した学園の姿を天国から合掌をしながら、あの笑顔で御覧になってみえることとおもいます。

創立55周年

— 世界観の確立をめざして —

理事長・学園長 石田正城

本学園創立者石田鑑徳先生が逝去されて早や20年、一瞬のうちに過ぎ去ってしまいました。全職員協力一致のもとに一歩一歩着実に現段階まで到りましたことは誠に喜ばしいことであります。鑑徳先生が55年前に先見の明をもって唱えられた崇高な精神「世界観の確立」こそ私がこの20年間に力を入れてきた一つであります。特に海外姉妹校の提携と友好関係の樹立を図り、全世界のどこにでも石田学園の姉妹校があり、学問の追求を、視野の拡大を、平和の推進を希求することができる理想の環境を求めてまいりました。



星城高校では現在、アメリカ・カナダ・オーストラリア・韓国に姉妹校があり、積極的な交換留学・文化交流等が行われ、校内に年中留學生が見受けられます。また全生徒が修学旅行で韓国の姉妹校を訪問し、国際感覚を身につけて帰ることが出来るのは素晴らしい体験であります。明德短大でも国際文化科が現地での実習を必修にしている関係で、アメリカ・ヨーロッパ・アジア圏において6ヶ国の大学との連携、友好関係が進み年々実のある論文作成と幅広い人格形成に大きな進展が見られます。

今年5月に姉妹校へ生徒を引率して出かけ、特に本校が1977年に最初に提携をしたロサンゼルスのパックレースクールを久々に訪問し、大きく成長した18年前の記念植樹「かしの木」を見て感慨無量でありました。

異文化交流とはお互いに学び合うことであります。お互いの文化や習慣、生き方を認め相手の素晴らしさを尊敬すること、同時に自分自身の良い点を誇りに思えること即ち心が開かれていなければなりません。先ず真に日本文化を学ぶことが世界観の確立につながっていくと思います。

このような国際的視野から事物を判断する体験を通して人格形成の高揚に今後も努めてまいりたいと思います。

55年目の決意

★名古屋明德短期大学

——明德短大の発展を目指して——

本学は平成元年4月英語科のみで開学、その後国際文化科、専攻科(英語専攻・国際文化専攻)を増設、現在795名の学生が勉学に励んでいる。建学の精神のもとに明德の学生としての人格形成、知識の向上を目指し、教職員・学生が一体となり勉学の場として学風を作る努力をしてきた。少子化時代を迎えた学生募集の環境は今や非常に厳しい時代に入り本学としても諸々の対応を迫られている。本学としては開学以来の経験をより発展させ、何が求められているかを十分考えた方策を立て、具体的に実行に移していかなければならない。学生にとって2年間の学園生活を充実したものにするためには、授業を通した勉学の成果、先生や学友との交わりの中での人格形成、クラブ活動・学園祭などの諸活動の場を通した思い出づくりなど、さらに体制整備に取り組んでいかなければならない。そのため9年度からの実施を目指して授業体制改革の作業にとりかかっており、学生にも、時代の要請にも応えられる内容としていきたい。また、本学設置学科の特色からも国際的な人材育成が使命のひとつであり、海外の他大学との国際交流を一層盛んにしていきたい。

一方、地域に開かれた大学が必要とされる時代でもあるので地域市民の参加する授業、施設の活用方策を研究していかなければならない。これらの方策を全教職員が一体となって考え、工夫を重ね「わたくしの短期大学」という意識のもとに一つ一つ着実に積み上げ、より良い短大作りに取り組んでいく。

★星城高等学校

生徒数の急減の流れに加えて、昨今のわが国の経済的低迷を反映して、中学生の進学が公立志向を加速化しており、私学は未曾有の危機に直面している。わが星城高校も例外ではない。このような状況の中で、われわれは、ともすれば発想が「生き残りをかけた学校づくり」に向けられがちである。

われわれは、このような防衛的な発想に生産点を見出すことはできないと考えている。むしろ、これを本校発展のバネとして捉え、学園創立55周年を機に、いかに特色ある

魅力ある学校づくりに全教職員の英知を結集していくかを学校経営の土台としていかなければならないと考える。この視点により、星城高校では、本年4月以降、管理職会、主任会、職員会議等で討議を重ね、本校の活性化を図るための当面の第一弾として、現在の家庭学習日、第二・第四土曜日を生徒の教育活動に参加させる方策として、二学期以降次の事項の実施にふみきった。

- 一、大学進学志向の高まりに対応して、名英予備校を中心に外部講師を招聘し、大学受験特別講座を国語、数学、英語で実施する。
- 一、各教員の工夫をこらした自主講座を開き、生徒の多様な教育要求に応える。(現在は、英語検定、簿記検定、パソコン、英語・数学の基礎、地域の歴史等をテーマとした自主講座)われわれは、将来の完全学校五日制を視野に納めつつ、生徒の教育活動への参加を積極的に図るための具体策を、教職員の英知を結集して摸索していく予定である。

★星城中学校

——中高一貫教育の実現——

中学校がスタートして3年が経過した。時あたかも学園創立55周年を迎えたこの年に、中高一貫教育実現をまとめ上げる年と合致するといった、まことに歴史的な年と受けとめている。その上戦後50年という節目の年、いろいろな見直しが試みられている中で、その最たるものが「教育の改革」であるといっても決して過言ではないと思っている。

先般も冊子「This is 読売」が「教育ルネッサンス」と銘打って、各界の著名な方々からのさまざまな方向から切り込んだ提言を掲載していた。それらはなるほど教えられる面が多かった。しかし具体的な一つ一つを現実にスライドさせて考えた場合、私達がクリアしなければならぬ点がありにも多過ぎて、とまどいすら感じる。例えば「中高一貫教育は私立学校でやるべきである。」という結論は理解できる。しかし各論において「飛び級の問題」「教育の自由化」「週完全5日制の問題」等々、なお相当な時間をかけてじっくりと現場サイドで検討しなければならぬ問題が提起されている。

それらを本校に導入し、完全実施する方向を検討すれば、必ず建学の精神の具現化、教育目標の達成へと進んで行けるものと確信する。併せて本校の中高一貫教育を実現するに当たっては、将来的に「仰星中・高等学校」へという大胆な発想も持たたい。それに向けて学校経営・運営、教

育課程、学習・生活指導、職員研修、人事問題等々山積する問題を、その掌にたずさわる全員で英知を出し合いながら、「中高一貫教育の実現」に向けて努力していきたい。

★星の城幼稚園

石田学園として55年、星の城幼稚園として25年を迎えたこの年、社会情勢はますます厳しく、豊田市ではトヨタの不振で3才児の就園率が低下し、幼児数の減少にプラスされ大幅な人数減の幼稚園もあると聞いている。現在、豊明市ではまだそれ程の事態にはなっていないが、昨年度と比べてパートに出る母親が増えてきている。そんな中で「幼稚園として生き残るにはどうしたらよいのか」とこの55周年を機に職員一同が一人一人意識を持って、教育内容の充実・質の高い保育をしていくことを考えていきたいと思っている。今までのように、入園者を待つだけでなくこちらから積極的にはたらきかけていくこと(ここ3年程がんばっているが…)に全職員が取り組んでいきたい。職員も危機感を持って取り組みたいと思っている。まず、今年度うちだした様々な企画を確実にクリアーし、評価へとつなげていきたい。先に行った「入園説明会・動物と遊ぼう」には169組の親子が参加し、10月28日(土)に行った同窓会には400名余りの参加があった。これらを次へと継げるには今後どうしていくかが課題となるが、現在では一つ一つの対外的行事を成功させることに職員の力を結集したいと思っている。職員一人一人、自分がやらなければとの意識をしっかり持ちつつ、協力し合う事が大切なのではないか。55周年を迎えるにあたって、職員一人一人が考える時を持つことがなによりだ。創立者の精神に今一度戻って、職員一丸となってがんばってきたい。

★名英図書出版協会

——発信局「名古屋石田学園」——

昭和26年10月発足以来、事業部(名英図書出版協会)は今年で45年になる。学園の中でも古い歴史を持つほうだが、長年教育現場で育て上げられてきた「英語の名英」は、現在もお新しい光を放ち続けている。

今、中学校現場で指導の中心になっている「コミュニケーション能力の育成」、「ヒアリング能力の育成」について、事業部としては発足の翌年から「東海三県中学校英語弁論大会」、昭和40年から「英語聴取力コンクール」という形で、どこよりも早くその重要性を唱えてきた。また、それらと平行して常に新しい教材開発にも取り組み、今では多くの先生方のご支持と高い信頼を得るに至っている。

このように常に時代をリードし、日本の英語教育普及に多大な尽力をつくされた先駆者の意志を継承し、これからもよりよい教材の提供と年間行事である各種コンクールの企画・実施を続けていく予定である。

また、「ペーパー・レス時代」を迎えて、事業部としてはパソコン用ソフト、ビデオCD、あるいはインターネット/パソコン通信など、マルチメディアを絡めた教材の開発の必要性を強く感じている。それは、近い将来少なからず現在の紙の教材に取って代わることが予測されることと、これらの分野の開発は、発信局「名英図書」から発信局「名古屋石田学園」にグレードアップすることを意味し、事業部のみならず、学園全体の更なる躍進を担う1つのカギになるような気がするからである。

★名英予備校

——原点をみつめ直す——

名古屋石田学園が本年で創立55周年を迎えました。石田鎌徳先生が昭和16年に私塾「明德学館」を創始されて以来、建学の精神は名古屋英学塾に流れこみ、高い社会的評価を得たときいています。その後、学園は拡大成長し今日にいたっていますが、55周年という節目を迎えたいま、創設期の精神が奔流となって大海に注ぐよう、原点をみつめ直しつつ未来展望を明らかにすることが何よりも大切といえましょう。

名古屋英学塾は、社会的要請をふまえ、明日を担う青少年のため、一人一人と肌の触れあう親身な指導を実践してきました。名英予備校もこれを原点として、中等教育から高等教育への中間的教育機関としての役割を最大限に果たすべく、日々決意も新たに内容の充実に努めています。これが輝かしい伝統を継承することであり、先達に対する責務を果たすことでもあります。生徒一人一人の将来に思いをいたし、明日のために、今日何をすべきかを真剣に考え、ますます質の高い教育の実践をはかります。

受験生が長期間にわたり力を集中でき、望ましい状態を持続できるため、日々の学習指導を充実させ、確かな手応えを実感させることが必要であります。本校では、少人数制の利点を活かして指導の充実をはかるとともに、学力の診断とその定着化をタイミングよく行う独自の指導システムや、心の触れ合う担任指導でもって受験生をサポートしていきます。

名英予備校は、人を大切に考え、人を大切に育てます。これが本校の教育活動の原点と考えています。

『学園の将来計画』策定にあたって

大学進学年齢に当たる18歳人口は、平成4年(1992)の205万人をピークに減少期に入り、平成12年(2000)には151万人、平成19年(2007)には129万人と15年間でピーク時の63%に激減すると見込まれている。出生率の通減に伴う学齢人口の推移は、幼稚園から中学・高校、大学に至る私学経営にとって深刻な環境として我々を厳しくとり囲んでいる。人口増＝入学者増という時代はこの先ない。この急減期を漫然と座して過すのか、学園関係者が英知を結集して試練に立ち向うのか、私学経営は岐路に立っている。

私立学校は、その教育の理想を「建学の精神」に掲げ、広く世の人々に信を問うて園児、生徒学生を集めてきた。「建学の精神」は、私立学校法人の使命をも示すものであり、私立学校はその使命を具体化する教育研究の目標を掲げる。本学園の場合「感謝のできる実践力に富んだ逞しい人間の育成」に凝縮されている。日常の教育研究活動の中で、この目標を達成するには巨額の資金を継続的に投入しなければならない。私立学校の基幹収入は生徒学生連からの納付金である。人口減少により生徒学生募集に困難を来たすなら収入減となり学校財政を直撃し、その目標とする教育研究活動に支障を生ずるに止らず、ひいては学校法人の経営を危うくする状況にも至るであろう。この危機的環境を乗り越え経営を続ける方策として、総合的な中長期計画が教育研究計画と財政的課題にかかる経営計画をもって立案されねばならない。法人本部企画室では、中長期計画の実施期間を平成9年度から5～10年としているが、学園全体として厳しい外部環境に対処するため、既に教学運営会議が「自己点検・自己評価」(平成5・6年度)「魅力ある学校づくり」(平成7年度)をテーマに各部門の真摯な取組みを報告し協議を重ねてきた。学齢人口減少期は私立学校生き残り競争時代である。園児・生徒学生と保護者が迷わず選択する園・学校として、石田学園各部門が評価に値する学習環境と教育内容、指導方法を構築することが緊急の課題である。

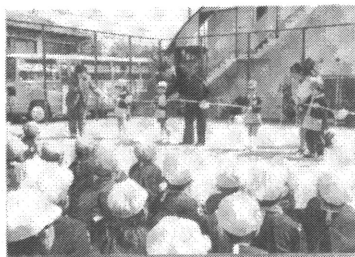
平成12年(2000)は21世紀の幕開け、学園創立60周年に当たる。次なる節目に向けて全力を尽くしたい。

各部門が独自性を生かし、学園発展の推進力になるのは部門長のもと教職員一致協力に外ならない。

将来計画策定作業の過程にあつて、部門からの建設的、積極的支援を願う次第である。 <企画室>

『星の城幼稚園 25周年記念事業』

◎「ミニサッカー場」開設



平成7年星の城幼稚園は25周年を迎えました。25周年記念事業の一つとしてミニサッカー場を建設しました。

園児よりサッカー場の名称を募集し、職員の協議で「スターキッズスタジアム」と決定しました。この名前を考えた近藤貴太くんのご家族にも参加していただいて、4月15日(土)にサッカー場開きをしました。園児代表、園長先生によるテープカット・園歌斉唱・園児によるシュートなどを行いました。地元のTV.C-C Netも取材にかけつけてくれ、4月24日～4月30日まで毎日「とよあけウィークリー」の中で放送していただきました。また、5月にはサッカー教室も開講、生きたサッカー場としてどんどん利用していきたいものです。

◎「記念式典」開催

9月30日(土)星の城幼稚園において「創立25周年記念式典」が開催されました。まず、体育室を会場に、園児200名、保護者160名、来賓18名の出席のもと、園長先生の言葉、都築豊明市長、石川県県議員からお祝いの言葉をいただきました。

母の会会長あいさつでは園長先生の入園式のお話の中で「幼稚園の時期は知識を詰め込む時ではなく、器を大きくする時ですよ」と言われたことが印象に残っています。これから30周年、40周年に向けてがんばってください…とお祝いの言葉をいただき、母の会より25周年の記念にと絵画一式の贈呈がありました。そのあと、園児は移動動物園の小動物と遊んだり、エサをやったりして楽しく過ごしました。

また、母の会委員の手作りカレーを記念品の星の子のお皿で食べて、そのお皿を大切に洗い、ていねいに紙で包んで家に持ち帰ることができるようになりました。その間、保護者、来賓の方々は引き続き体育室において名古屋明德短期大学学長高橋令二先生の記念講演会に参加しました。学長先生のユーモアとウィットに富んだお話しに、笑ったり共感したりしてしらすらす引き込まれ、「嫉について、日・独の違いを通して」と題された1時間30分程の時間があつという間に過ぎていってしまいました。

12時には親子で手をつなぎ、記念品のお皿と記念誌をおみやげに家路につきました。私共職員はここまでにするのに

準備が大変でしたが、子供や保護者の方々のうれしそうな、満足げな顔を見ると苦労もむくわれたような気がします。保護者の方から「今年度在籍させていただいただけで本当にこの子は思い出に残ることがいっぱいできました。本当にありがとうございます」と感謝の言葉をいただきました。また、星の子のお皿も大変好評で、「家族分そろえたいのですが……ゆずっていただけませんか」などの問い合わせも多数あります。これからも50周年・100周年を目指して職員一同がんばっていきたいと思っております。

創立3周年を迎えて

『星城中学校』



本校が産声を上げてから早いもので満3年が過ぎようとしている。本年度はそれを記念した感謝祭が去る9

月30日・10月1日の両日に亘って盛大に行われた。2日間のプログラムの中で主なものについて簡単に述べたい。

1. 記念式典（同上写真）
来賓、保護者、教職員・生徒参加による式典挙行
2. 記念講演 講師 専光坊 宇佐美秀慧先生
演題 「今、学校家庭に求められるものは」
・学校家庭両教育の重要性を柱にした心暖まる話
3. 食事会（後援会が中心で初めて実施）
・参加者全員による立食パーティ（約350名）
4. 伝統芸能鑑賞
・古典芸能の分野に入る「琵琶」の鑑賞
5. オーケストラ演奏
・3年生による本邦初公開。素晴らしい腕前披露
6. 音楽鑑賞「FK楽団」
・弦楽器を中心にした音色に感嘆

その他英語弁論、内観体験、京都・奈良研究発表会、仰星エッサッサ、創作ダンス、作品展示、バザーなどが例年のように実施された。年々内容は充実してきてはいるが、3回目ともなるとややマンネリになって来ていることは否めない。来年度は少し視点を変えながら生徒と先生が一体となって考えたい。

学園創立55周年事業

記念式典 星城高校石田記念館ホールで

今年度は学校法人名古屋石田学園の創立55周年、星の城幼稚園の開園25周年にあたります。

この記念すべき年を迎え、学園及び各学校では、記念事業として (1)幼稚園…ミニサッカー場新設 (2)中学校…教室増築 (3)高校女子部…特別教室増築 (4)高校男子部…正門内側の修景工事 (5)短大…クランド整備・クラブ室新設 (6)学園…ゲストハウス新設等の事業が行われます。

又、記念式典が7年12月16日(土)13時から星城高等学校石田記念館ホールにて行われます。当日は学園理事・評議員・監事、各部門の教職員、各学校関係者の同窓会・父母の会・後援会の役員等、又各部門の生徒・学生の代表等約400名が参加して、創立者・物故旧教職員に対する黙禱、功労者・永年勤続者表彰、創立者遺影への献花、等の内容で行われます。

☆『ゲストハウス完成』☆

学園創立55周年記念事業の一環として、8月中旬にゲストハウスが緑区大高町に新設されました。国際交流推進のため外国からの来客者の宿泊施設として、又名古屋石田



学園全体の諸会議施設として今後利用されます。早速9月より会議として教学運営会議・理事会に利用され、

又オーストラリア、インドネシアから来客の先生方が宿泊されました。海外からの先生方の歓迎会も開催され、今後ますます国際交流が活発になることが期待されています。

ゲストハウス利用状況

【会議】

- 9.20 教学運営会議
- 10.11 理事会

【宿泊】

- 9.11～10.5 オーストラリア・ウエスレー 高校先生
- 9.27～9.30 オーストラリア・メントーン 高校先生
- 10.11～10.19 インドネシア・タラカニタ大学学長

【歓迎会】

- 9.25 オーストラリア・ウエスレー 高校先生
- 9.28 オーストラリア・メントーン 高校先生
- 10.11 インドネシア・タラカニタ大学学長

『楽しみを求めて』

学校法人名古屋石田学園
理事 浦野 了先生

1. はじめに

全く偶然のご縁から文部省の「産業の高度化に対応する実践的技術者の育成に関する調査研究協力者会議」（文部省職業教育課担当）のメンバーの末席を汚す破目になり、本年央をもって3年間の責を終えることが出来ほっとしております。



この間文部省の担当の方々々が任務に忠実に驚異の熱心さで取り組んでおられる姿に接し深い感銘をうけました。この事だけでなく曾って当学園が短大を設置する際、またその後国際文化科を新設する際にもその熱心さに同様の驚きを覚えました。

教育は有為な若者の一生を左右する程の影響を持つものであるだけに、それを業として行う者の方針、態勢には万に一つの欠落も許されるのではなく、指導監督官庁である文部省当局が極めて厳密、公正に指導される姿勢は責任上当然とは申しながら頭の下がる思いを強く持ちました。

2. 向学の道づくり

ところで前記調査研究協力者会議の産物の一つとして、工業高校の卒業者または一旦社会人となった者を対象として原則として2年間に修業年限とする専攻科を設置することが実現しました。

その目的は生徒の多様化する学習意欲に対応するルート作りにあったと言えます。

教育の既成パターンから脱却して社会ニーズに即応し教育の深化を求めた立派な制度の誕生と言えます。尽力された関係各位に対し深甚なる敬意を表したいと思います。

この様に多くの方々のご努力ご理解によって向学心の旺盛な生徒、社会人の進む道が大きく拓かれたという恵まれた環境下の青少年は大変幸福であると思われました。

3. 疑問

大変良い制度が出来ました。ご同慶の至りです。目出たし目出たしと喜んでいるだけで良いでしょうか。

こうした制度が本当に役立ち、生かされた制度にすることがこれからは大変だと思います。そこで制度も大切であ

るが、教育には他にも大切な事があるのではないかと疑問を持った次第です。昔に比べて現在は随分社会資本も充実されました。教育制度、環境についても同様なことが言えます。ところが登校拒否が増加しております。私の若い頃には想像出来なかった現象です。何故でしょう。無責任な推定ですが、「学校が楽しくない」に尽きるように思います。

4. ある事例

教育は斯くあるべしと思う場面に遭遇したことがあります。ブラスバンドで全国優勝した高校の演奏に接した時です。数十人の団員一人ひとりの目が輝き、若者が一事に集中している美を感じました。非行に走る少年はこの中には一人もいないだろうと思いました。また指導する先生が素晴らしく、演奏中の指揮にそれが表れておりました。

「うまいぞ、その調子だ、君の演奏は素晴らしいぞ」等々指揮をしながら直接生徒に語りかけている風情が観取されるものでした。著名な指揮者のそれよりも遙かに新鮮で指揮者と生徒の一体感が歎びと感じとれました。演奏が中断した休憩中の先生と生徒の寛ぎの場にも何者の介入も許さぬ融和間が漂っておりました。この先生は大変な影響力を生徒全体に及ぼしておられる。その偉大さを窺い知ることが出来ました。全国優勝をするからには血の滲むような厳しい練習があったことでしょう。しかし厳しい練習の中にも楽しい雰囲気があって、全員が楽しみながら助け合って努力を重ね、その結果として全国優勝があったに違いないと思いました。

5. 楽しむ

釈迦が弟子に尋ねました。「人間は何のために生まれて来たのか」と、難しい答えをする弟子の中で一人だけ「遊び楽しむため」と答えた弟子に、それを正しいと言われたそうです。確かにつまらない事でも興味を持つようにして行えば案外楽しくなるものです。又仕事でも難しい局面に立たされた時、その解決方法を考え実行することは苦しい事ではありますが、いろいろ工夫をして成果に結びついた時は、何物にも代え難い喜びを感じるものです。喜びを期待して工夫の限りを尽くすことは苦しみと楽しみが同居しているように思えるものです。そんな気持ちで取り組んだ時には質の良い仕事出来るように思います。

教育も場所、教具、時間等物理的条件を整えることも勿論大切ですが、その反面、無限の可能性を持つ若者を育てる喜びを大前提として、人と人の触れ合いから生まれる共通の楽しみを求める事も大切であると思えます。教育は共育だと言った方があります。良い教育とは何か、その方法は何か、これは永遠のテーマでしょう。その源流に楽しみを求めることが不可欠のように思えてなりません。

教学運営会議

過去2年間に亘って「学園各部門の自己点検・自己評価」を課題に検討してきたが、各部門(学校)とも実態把握はできつつあると思われる。

平成7年度の議題は「学生生徒の減少を前提とした各部門(学校)の特色づくりの具体策」とし、学園としてこの一年間「魅力ある、特色ある、学校づくり」を最大テーマとして取り組んでいくことになった。

◎第1回 6月14日 名古屋明德短期大学にて

第1回については、予備校・事業部より今年度の実態について発表があった。

【事業部】…今年度は二つのテーマを重点に取り組んでいく。

- ①担当地区の地域性を見直し、効率的な営業活動をする。
- ②英語教育の動向を把握し、教材の開発をすすめる。

【予備校】…本年度の募集結果については大幅減となった。

- 要因として ①浪人数の減少 ②他の予備校との学費の差なし ③知名度が低い等があげられる。

生徒数減少期に入り、大変厳しい状況下にはあるが質の向上をテーマに予備校の「魅力づくり」に精一杯頑張っていきたい。

以上2部門の発表後、生きのこりをかけた学校経営について活発な討議がなされた。

◎第2回 9月20日 ゲストハウス会議室にて

第2回については、短大・中学より発表があった。

【短大】…①教育面での改革では、(ア)単位制の改革 (イ)カリキュラムの改定 (ウ)学生生活の充実など、出来るものから実行していく。②募集対策の推進策 (ア)高校訪問 (イ)テレビでのPR (ウ)学生への個別接触、に力を注ぐ。



- ③生涯教育、地域交流対策—公開講座の充実、科目等履修生の拡大他
- ④事務室の改革—事務員の入れ代わり

あるも、平準化・効率化を図る。

【中学】…①中学校としての特色をどのように出すか—基礎・基本を忠実に守って教育していく。②学力向上に向けて教師側はどうあるべきか—*真っ向から向かっていく精神—真剣勝負*円満な心、人格形成、リーダーになれる生徒を育てていく—*全人教育 ③本校を外部に向けてどのように理解させていくか—*全教員による塾訪問 *学校説明会の充実 *保護者全員に「紹介票」の協力依頼 *塾主催による「学校説明会」への参加*私学展への参加*文化祭を感謝祭「食事会」として行う等の発表があった。

<星の城幼稚園>

◎「夏まつり」

開催日：7月22日(土) 16:30~19:30

朝から雨が降っており、心配されましたが、始める頃には雨も上がり、プログラム通り行うことができました。

豊明市文化会館の駐車場を借りシャトルバスを走らせましたので違法駐車もなく、保護者の評判もよかったです。25周年記念として例年ない催し物(人形劇・映画会・サッカー紅白試合・太鼓の演奏・抽選会etc.)を企画しました。

3時間の短い間でしたが親子で十分に楽しまれたようです。園児・きらきら生・未就園児・卒園児とその家族の方々2,000名余りの方が夏のひと時を楽しくすごされました。

◎「一泊合宿」

開催日：8月25日(金)~8月26日(土)

年長児64人が恒例の仰星館合宿を行いました。

今年は例年とは趣向を変え8月25日夕から3.5キロ競歩に挑戦しました。

炎天下を避け同日午後6時半、園を出発、名鉄前後駅を経由し、仰星館へ向いました。「そんな激しいことはうちの子にはできません」と参加を渋っていた母親たちの心配をよそに、一時間半ほどかけ、参加した64人全員が歩き抜きました。

列から脱落する子が出るのを想定し、途中バスを待機させましたが順番はなし。「流れ星が見えたよ」と余裕を見せる園児もいましたが、さすがにその夜は疲れ、隣に親がいない布団でも「バタン、キュー」と眠りにつき、貴重な体験となったようです。

〈名古屋明德短期大学〉

◎平成7年度

—「名古屋明德短期大学公開講座」開催—

恒例となっている「名古屋明德短期大学公開講座」は本年度も5講座開催された。

本講座は「地域に開かれた大学」を目指し平成3年度より開始され本年度で5回目を迎えることとなった。この間、地域市民の聴講も回を追うごとに増加し好評を博している。

本年は本学専任教員の研究テーマを中心に4講座、外部講師1講座で10月より12月まで開催された。

尚、本講座をとおして本学学生以外の「科目等履修生」を呼びかけ、7年度は8名の近隣市民が14科目の講義を本学学生と共に受講している。

今後とも一層「地域に根ざした大学」として活動していきたい。

第1講「シェイクスピア作品の翻訳について」

講師 小林康男氏（本学助教授）

第2講「イスラム文化の一断面」

講師 森川孝典氏（本学助教授）

第3講「オールダス ハックスレイの思想」

講師 海老塚敏男氏（本学教授）

第4講「博物館とイギリス人」

講師 守屋 純氏（本学講師）

第5講「和から共への転換」

講師 神田英輔氏（日本国際飢餓対策機構総主事）

◎「東海市のわらべ唄を小冊子にまとめる」

国際文化科の平成6年度卒業生が、畑中教授の「日本文化演習」の一環として取り組んだ東海市のわらべ唄採集を小冊子にまとめ、希望者におくっている。学生49人が8班にわかれ東海市、大府市内のお年寄りを教室に招いたり、出向いて聞き取った。

東海市は、臨海部の工業地帯に勤めるために東北・九州などから転居してきた人が多く、純粋に市内に伝承されてきたわらべ唄を集めることは難しく、学生たちも初体験で戸惑った。

しかし、お年寄りや地元小学校の校長先生方のご協力も得て、手まり歌・縄跳び歌・数え歌・正月歌などを収録することができた。

又東海市消防音楽隊のご好意で録音テープから採譜、メロディーを再現することもできた。

純粋に東海市域に伝承されてきたわらべ唄を採集するこ

とは、今日の時点ではきわめて難しいことになっている。しかし、このような状況にもかかわらず学生諸君の採集結果はほぼ期待どおりのものとなり、大変意義あるものとなった。

◎新入生オリエンテーション合宿

——今年も伊良湖で実施——

恒例の新入生オリエンテーション合宿が、英語科は4月6日(水)から、国際文化科は4月7日(木)から1泊2日の日程で伊良湖で実施されました。

この合宿の目的は、相互の親睦を深め、学生生活に必要な情報を提供して早く学園にとけこめるようにすることです。内容は、教員とのミーティング、明德杯争奪ボーリング大会、2年生とのミーティング、フラワーパークの散策やゼミごとの企画など盛沢山。ネイティブの先生やクラス・ゼミの先生と車座になって語り合ったことで、新入生と教員との距離が急速に縮まり、4月中旬からの授業に好ましい効果をもたらしています。

本学の合宿の特色は、新2年生の有志が準備段階から積極的に参加し、合宿当日も新入生の世話や誘導、ミーティングの進行などに責任をもっていることです。先輩たちから現地演習の体験などいろいろな話を聞く機会があるという点は新入生にもとても好評です。何より貴重なのは、2年生の暖かい歓迎を受けた1年生が、翌年にはまた2年生スタッフとして参加し、これが本学の伝統となって受け継がれていることです。

合宿はおおむねその目的を達成しましたが、反省点も残しました。連絡をしないで欠席したり、遅刻や喫煙をしたりする新入生が何人かいました。これはマナー以前の問題として深刻です。私たちはこうした学生たちにどのように教育的に関わっていけるか、重い課題を背負い込んだ気がします。（英語科 学生部委員 中島）

◎「短大に後援会設立」

平成元年4月設立の名古屋明德短期大学は、開校時は英語科のみの一学科でありましたが、平成5年4月国際文化科を増設、平成7年3月には国際文化科の第1回生も送り出し文字通り完成年度を迎えました。

名古屋明德短期大学の今後の発展を期待し、さらなる活躍を念願して組織的な支援体制を確立するため、「名古屋明德短期大学後援会」の設立総会が、7年6月28日短大において盛大に開催されました。

尚、会長には徳倉英成氏が就任され、今後組織的な支援体制を確立していくことになりました。

◎さらに広く地域に根ざして……

——秋桜祭開かれる——

10月13日(金)～15日(日)の3日間、秋桜祭が開催された。学生会の企画・運営によるこの行事も、6回目を迎え、年々盛大になってきている。今年のテーマは“アプローチ”であった。内容は、クラス模擬店・クラブ発表・中庭ステージ・体育館等での企画も増え、特に国際文化科「現地演習」の発表展示や、インドネシアからの留学生(タラカニク大学)の舞踊の披露は、大学の国際交流に深く結びついた行事として、強く印象に残った。また傾向として、地元の方々の参加も年々増えてきており、秋桜祭が地域に広がり、定着してきていると確信することができた。

しかし、改善すべき点もみうけられ、今後引き継いでいく学生には、卒業生の残した成功・反省のかけがえのない財産を生かし、より充実した「秋桜祭」になるよう期待したい。

(名古屋明德短期大学 青井 誠)

<星城高等学校>

平成7年度インターハイ成績結果

- ◎ (剣道) 団体 予選リーグ敗退
個人 中島徳久 (3年) 1回戦敗退
有富咲恵 (2年) 2回戦敗退
- ◎ (レスリング) 団体 3回戦敗退
個人 原田裕年 (46Kg級) 1回戦敗退
吉田直人 (54Kg級) 2回戦敗退
牧 勇 (58Kg級) 2回戦敗退
山口和典 (63Kg級) 2回戦敗退
藤内 隆 (68Kg級) 3回戦敗退
(ベスト16)
- ・ 横山範将 (74Kg級) 2回戦敗退
神谷 潤 (115Kg級) 1回戦敗退
- ◎ (ソフトボール) ベスト16
- ◎ (水泳) 個人 栗本直博 (1年) 100M平泳ぎ4位
個人 栗本直博 (1年) 200M平泳ぎ7位

卒業生も各種目で活躍中

- ◎ 1996「アトランタオリンピック」出場選手
(バスケットボール)
村上睦子 (平成元年3月卒) ポイントガード
地原礼子 (平成3年3月卒) マネージャー
(いずれもシャンソン化粧品)
- (ソフトボール)
村上真由美 (平成5年3月卒) ピッチャー
(トヨタ自動車)

★候補20名枠には入っているがオリンピック出場15名は今後決定

第33回学園祭盛会裡に終わる!!

平成7年度、第33回星城高等学校学園祭は9月27、28、29の三日間、秋晴れの下、「The United “Boys and Girls”」(～みんなが一つになった時、感動が思い出に変わる～)のテーマをもとに約2,700名の生徒の心、眼が一点に集中し、学園祭を盛り上げることが出来ました。27日の体育祭は多くの来賓の他、豪州ウエスリー高校、メントーン校の留学生も参加し、国際色豊かな体育祭を行う事が出来ました。文化祭では学園祭イベントとして、さくらさくら・デンジャラスを迎え、明德館一杯に歌と笑いがあふれ、興奮のるつぼと化しました。また、各クラスの展示、研究発表も例年になく充実したものがあり、各クラスの準備の大変さが想像出来ました。

恒例の音楽コンクール、弁論大会も留学生を交え、熱弁、熱唱の連続でした。

★各部門の優勝は次の通りです。

体育祭 優勝 青ブロック。展示部門では男子最優秀3年2組 女子最優秀3年保組。研究部門は男子1年10組 女子3年1組。音楽コンクールは 優勝3年保組。弁論大会優勝 仰星2年 川原大輔。

☆☆☆☆☆☆☆☆

明德短大竹内 實教授・勲4等瑞宝章受賞

名古屋明德短期大学客員教授竹内實先生は、平成7年秋の叙勲で愛知県の公立高校校長会会長として、永年高校教育につくされた業績等により勲4等瑞宝章を受賞された。心からお祝い申し上げます。

星城高校柴田 清先生表彰さる

——私立学校教員表彰——

星城高等学校柴田 清先生は、平成7年度の表彰で、私立学校に30年以上勤務し教育の充実、発展につくされた業績等により愛知県「私立学校教員表彰」を県知事より受賞された。

表彰式は10月5日、愛知県庁講堂でおこなわれ、本学園関係の方の荣誉はまことにおめでたいかぎり、心からお慶び申し上げます。

——学 園 表 彰——

平成7年度の学園表彰者は、次の通りである。(敬称略)

勤続30年	柴田 清	星城高等学校
20年	東 武行	〃
	橋本 雅義	〃
10年	石部 生志	〃
	高田 博	〃
	柴田 信代	〃
	山下 直子	〃
	石川 晋輔	〃
	壬生 剛	〃
特別表彰	橋本 雅義	〃

『第五回名古屋石田学園事務職員研修会催される』



学園6部門に勤務する事務職員が一堂に会する研修会も回を重ねて定着してきた。今年度は名駅にも近いグランドスクエア・クレールに会場を設営し、47名が参加して行われた。7月28日は酷暑のピークにも拘らず、午前8時45分には全員が顔をそろえ、午後5時まで熱心に取り組んだ。理事長代理として中高校事務長西川理事の開会挨拶に引き続き、6名の新規採用者が4カ月の経験を披露しながら個性を發揮した自己紹介。戦場は離れていても仲間に溶け込む前向きな姿勢に歓迎の拍手。

主催する法人本部から、石田事務局長が研修会の基調講演として「学校法人の置かれている環境と本学園の将来」と題して、各部門の短期計画の重要性を認識し、学園に期待されている社会的使命を果たせるよう、日常の仕事への自覚と研修の必要性を参加者に訴えた。2人目の本部講師小川真名美さんは「メール鞠の重要さ一文書期日の厳守から」をテーマに、現行のシステムを最近1カ月の利用データで分析し、OHPを使って解説した。メールで本部に送られ、更に監督官庁等へ提出される書類の期限も考え、迅速かつ正確な文書事務の勵行を痛感させられる内容であった。

休憩を挟んで各部門から6人が発表。前回の研修で課題と認識していると述べた事項についての取り組みが発表された。5部門が昨年と異なる発表者を立て、発表者自身の演習と部門の取り組み状況報告を競演した。中高校部の有代さんがこの日2人目の女性発表者、女性の積極的な参加が研修会の活性化を生み出すようだ。今後を期待したい。

午後からは、前回の研修のメインテーマの内容を発展定着させることを期待し「コミュニケーション能力の向上をめざして」と題して、中産連から総合研究所マネジメント研究部長安達勉先生に講演と演習(グループ討論指導)を頂いた。

講演では、新しい組織内コミュニケーションの在り方をJOINT VENTUREと捕えて解説され、送信者と受信者が「情報の分かち合い」を成立させるには「回路を合わせる」=共感的態度で臨むことが肝要と指摘された。また、日常の行為でありながら何気なく看過している「指示の出し方、受け方」についての的確さ、効率化向上のポイントを具体的に示された。

今から実務に活用できるよう心がけたいものである。最後にプレゼンテーションの5原則(正確、簡潔、平易、達意、好感)を心がけ、能力向上に努めるようにと述べられた。生徒学生や保護者、教員、外来者や取り引き相手、地域住民等学園に関わる各層の人々との時と場合に応じた適切な対応、理解を得て良好な関係を築いていく上で、大切な技量であると改めて感じさせる内容であった。

休憩後、職場内コミュニケーションの現状と問題点を探り、今後の方向性を考えるグループ討論をA～Gの7組に分かれて行った。B紙に書き込んだ検討の経緯を各代表が報告したが、終了時刻が迫って質問、講評をカットせざるを得なかったのは残念であった。進行管理の失敗として次回この轍を踏まぬように留意したい。

予備校校長山北評議員の挨拶で研修会を閉じ、会場を隣室に移しての懇親会では、和やかな雰囲気の中に職場間交流が深まった。名古屋石田学園を支える事務職員として協調精神を培い、各自が事務能力を高める研修会を目指し、一層の充実を図りたいものである。

(法人本部 企画室)

<編集後記>

平成7年度は学園創立55周年にあたる。

記念事業の一環として7年12月16日(土)石田記念館ホールにおいて「記念式典」を開催、並行して「学園報記念号」を発行することになった。ページ数も8ページから12ページに増やし、記事も創立55周年関係が多く、各部門の決意等も掲載することとなった。各部門の決意・今後の取り組み方をみるにつけ、環境はきびしいが21世紀に向けて学園全体の更なる躍進を確信するところである。

賛助協力者御芳名

このたびはご協力くださりまして誠に有り難うございます。ご芳志に厚く感謝いたします。本年は石田学園創立以来55周年を迎えます。55周年に当たり、教育環境を整備充実するために、種々の記念事業を企画し、又 (1)教育研究用の機器・備品・圖書の購入 (2)学校施設の新設、改修の費用 (3)国際交流のための資金 (4)その他教育研究に関わる経費等に活用させていただきます。本学園といたしましても、この機会を更なる発展の契機とし、尚一層の努力、精進をいたす所存でございます。何卒、今後ともより一層のご支援、ご指導を賜りますよう伏してお願い申し上げます。この協力者御芳名は平成7年10月31日までに申し込みの方を掲載させていただきました。

(敬称略・順不同)

◎「高 額」

戸田建設株	石田 正城	藤野 智洋
石川 平八	野口 安廣	野口 孝子
野村建設株		

◎「10万以上」

㈱半谷製作所	井上 正夫	堀尾 豊
竹内 一成	鈴木 正孝	近藤 俊夫
高木 繁久	小川 峯雄	小林 武彦
水田 秀樹	山川 祐史	中田 京子

◎「5万以上」

高橋 令二	河村 淑子	野々山舜詩
近藤 重和	川原 昌巳	井戸 清明
石田 正義	本間 実	富田憲太郎
芦荻 良成	諏訪 義純	山田 利之
角岡 義則	新美 隆男	東 正彦
富田 孝次	角田 登	十市 英一

◎「2万以上」

近藤 泰彦	庄司 敏克	久野 一弘
舟橋寿賀雄	加藤勝二郎	谷澤 典夫
藤田 正勝	下谷 秋夫	石金 俊一
高村 元雄	安井 洋治	稲垣 康雄
舟本 正	武田 典明	高波瀬久也
稲見 精一	川辺 清次	酒井 克俊
服部 景子	神谷 茂之	徳倉 英成

松島 潤	木下 拓実	若原 正光
船曳 長武	杉浦七海男	中島 清
浜 是幸	細川 陽一	吉田 誠一
工藤 民男	室谷 一秀	原 浩二
市野 秀文	志貴 一仁	斉藤 佐七
平岩 明和	徳村 琢磨	加藤 強
神田 宣之	深谷 達朗	

◎「1万以上」

佐藤 桂三	小栗さと子	尾崎 保子
出丸 隆	加藤 幸恵	岑 長臣
伊藤 益治	笠松 英樹	田辺 善作
磯部 元明	堀川 剛克	竹内 梅夫
橋本 正生	後藤 義雄	大鐘 憲二
森田 良晴	渡部 芳子	中村 秋男
石川 修	佐藤 豊	安藤 和人
寺崎多喜男	福尾 豊	山崎 靖議
古田 元男	金森 潔	品田 正明
河合 洋子	清水 一茂	大矢 利隆
鳥居 俊彦	真鷲 良宣	松尾 正美
林 芳郎	榊原 一秋	白井 久孝
青木 一夫	藤本 恭次	高橋 孝
向山 昌幸	宇野 英敏	松村 徹
松原 明夫	加藤 隆之	宝田 博夫
鈴木 宗勝	山本 理絵	浅岡 幹雄
梶川 稔	加藤 春代	深谷 和久
川口寿美雄	青山二三夫	千本 安男
熊野 有樹	稲垣 正和	和田 義昭
鈴木 正秀	立部 弘揮	大村 弘道
黒田 健二	小島 要	安楽 龍二
小林 恒夫	松田啓志郎	山下 正秋
細川 俊博	鈴木 道博	前田 清一
伊藤 紀男	神谷 優次	森 俊二
神谷 式男	福田 芳数	内田 等
中野 守人	白井 進	小出 米三
鈴木 辰雄	澤井 達夫	竹内 俊夫
石川 亮	堀部 芳武	成田 克巳
柿崎富美雄	杉浦 宏幸	浅井 良美
清澄 保	川尻 輝雄	岩田 眞一
加納 公明	伊藤 潔	足立美也子
北里 恭祐	鬼頭 明	吉川 精治
船橋 在雄	西浦 義雄	亀井 鈴男
徳重 眞一	藤木 七郎	竹内 幸久

竹内 保久	稲垣 學	毛受 弘明	今津 太一	浅沼 清	岡本 俊二
中村 登	竹中 研二	小笠原 修	小笠原秀夫	加藤久美子	富永 因香
蟹江 辰彦	浜口 八一	石川 鈴法	近藤 金範	久野 宏仁	鈴木 和義
永井弘一郎	西内 健二	石尾 直久	大岩 良二	高瀬 幸春	上原 実
古野 公康	加藤 圭子	島本 勝人	山田 泰生	角谷 修	近藤 光秋
青木 伸悟	古川 慎二	颯田 敏夫	滝沢 敏彦	中村 茂夫	柴田 章夫
谷本健次郎	野村 貢	松浦 正夫	加藤 高則	和田 延男	片岡 史郎
安部 幸正	光田 信弘	荒川 勝	玉山 正喜	鈴木克比古	神谷 清貴
相川 秀行	水野 幸博	斎藤 修	佐藤 一三	清水 政昭	河合 清勝
安江 正博	安江 武彦	日浦 孝一	加藤 高明	長屋 実	鳥原 勝
山田 紘正	成田 稔	片山 惠三			
久納 正行	加藤 裕樹	鈴木 勲			
山口 容光	福井 芳尚	石黒 己由			
大谷 要	加古 定男	中島 正年			
鳥居 洋三	丸山 敏雄	蟹江 敏道			
柴崎 勝世	戸松 浩二	久野 貞彦			
(有) 天木石油	高木 喜一	木村 孝雄			
渡辺 正幸	石川 正治	石川 良夫			
牧 賢二	中川 武雄	伊藤 弘明			
堀野 政芳	太田 敏雄	前島 和利			
後藤 和之	原田 淳市	堀 孝義			
内藤 勝彦	河村美恵子	大野 武久			
曾根原章夫	小藪 一男	松浦 寛次			
河野 清巳	中田 和彦	水野 英一			
青山 豊	岡安 正広	山田 安			
大林アツ子	横井 紘司	青木 徳二			
中山 広一	山口 利明	鴨下直治郎			
羽場崎文夫	山田 順一	有馬 松男			
井上 安郎	丸山 修一	加藤 和美			
斉藤 昌治	大庭 敏明	塚本 憲二			
加藤 邦市	村山 民夫	木下恵美子			
田下 栄喜	山口 一則	都築 孝司			
矢野 隆	河村 次郎	横山 一雄			
青木 隆	稲生 恒久	日下 克俊			
楠原 年夫	亀井 康博	加藤 豊			
嶋根 利元	浅野 信久	森田 英司			
山田 英之	園原 揚介	黒宮 貞夫			
青木 良史	大野 悟	吉村 雅晴			
松永 好弘	森川 健司	小原 和実			
西村 克己	沢田 知美	諏訪 賢一			
村松あき子	林 武彦	中島 龍則			
前田 秀紀	江場 正彦	金涌 宏典			
馬場 経乘	元吉 聖昌	片岡 啓二			

◎『上記のほかにご協力いただいた方々』

天木みち代	吉田 隆	梅田 芳孝
太田登美男	西條 吉樹	山田 鉦章
山田 高明	上野 隆彦	堀 利光
廣沢 信男	大瀬 重己	山田 活矢
後藤けい子	奥村 清次	板東 靖之
外澤 政雄	山崎 賢二	鯉江 明彦
本田 武光	石沢 弘夫	近藤 義弘
加古 敏雄	吉澤 進	近藤 好和
川上 公士	福井 康夫	鳴海 喜男
榑原 敏久	大見 広行	山代 道治
吉村 元延	加藤 量一	眞鍋 隆
三原 茂	長坂 俊作	川角年比古
間瀬 雅彦	榑原 論	祖父江良雄
山田 邦博	佐藤 豊孝	山盛恵美子
堀江 達	堀川 隆夫	荒川 廣幸
磯部 匡克	森 徳光	加藤 義則
宮崎 直美	木村 安行	大澤 敏之
大原 憲二	加藤 芳治	清水 和朗
中島 徳人	樋口 英介	横山 貞弘
加藤真由美	地田 敏栄	月脚 俊雄
寺澤 茂樹	増山 一春	河本酒造男
松永 長稔	岡本 安政	清水 政俊
荒川 健二	加藤 資成	坂野 光吉
谷地田 修	長谷川一男	岩城 稔
濱島 孝夫	笠井 耕二	富田 輝雄
上木 一雄	佐藤 徳路	塩澤 和幸
原 亨	石原 敬一	百合草 薫
小島 秀昭	伊藤 仁	富田 喜保
高橋 晴雄	田邊 利久	清水 博